

情報連絡員報告総括表(平成28年2月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況			
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化	
製 造 業	食 料 品		4		4		1	3			4		1	2	1		3	1		4			4			1	2	1
	織 維 工 業		1	2		3		1	2			3			3			2	1		3			3			2	1
	木 材 ・ 木 製 品			1			1					1			1			1				1			1			1
	紙 ・ 紙 加 工 品		1	1		2			2			2			1	1		2				2		1	1		1	1
	印 刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1	
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品	1	1	1		2	1		3			3		1	2			3		1	2		1	2		1	2	
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1			1		1				1		1			1			1		
	一 般 機 器		2	1	1	2			3			3			3			2	1		3		1	2			2	1
	電 気 機 器			1		1				1					1			1			1		1				1	
輸 送 機 器			1		1			1			1			1			1			1		1				1		
そ の 他																												
小 計	2	10	8	1	17	2	2	16	2		19	1	3	12	5		15	5	2	13	5	3	16	1	3	10	7	
非 製 造 業	卸 売 業	1		1		2			2			2		1	1			2					2			1		1
	小 売 業	1	3	2		5	1	4	2			5	1		2	4		4	2				6			3	3	
	商 店 街		1			1			1			1			1			1					1			1		
	サ ー ビ ス 業		3	2					5			5			4	1		4	1				4	1		4	1	
	建 設 業	1	2	1					4		1	3		1	3		1	3					4			1	3	
	運 輸 業			1					1			1			1			1					1			1		
	そ の 他		1						1			1			1			1					1			1		
小 計	3	10	7		8	1	4	16		1	18	1	2	13	5	1	16	3				19	1		2	13	5	
合 計	5	20	15	1	25	3	6	32	2	1	37	2	5	25	10	1	31	8	2	13	5	3	35	2	5	23	12	

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成27年2月～平成28年2月)

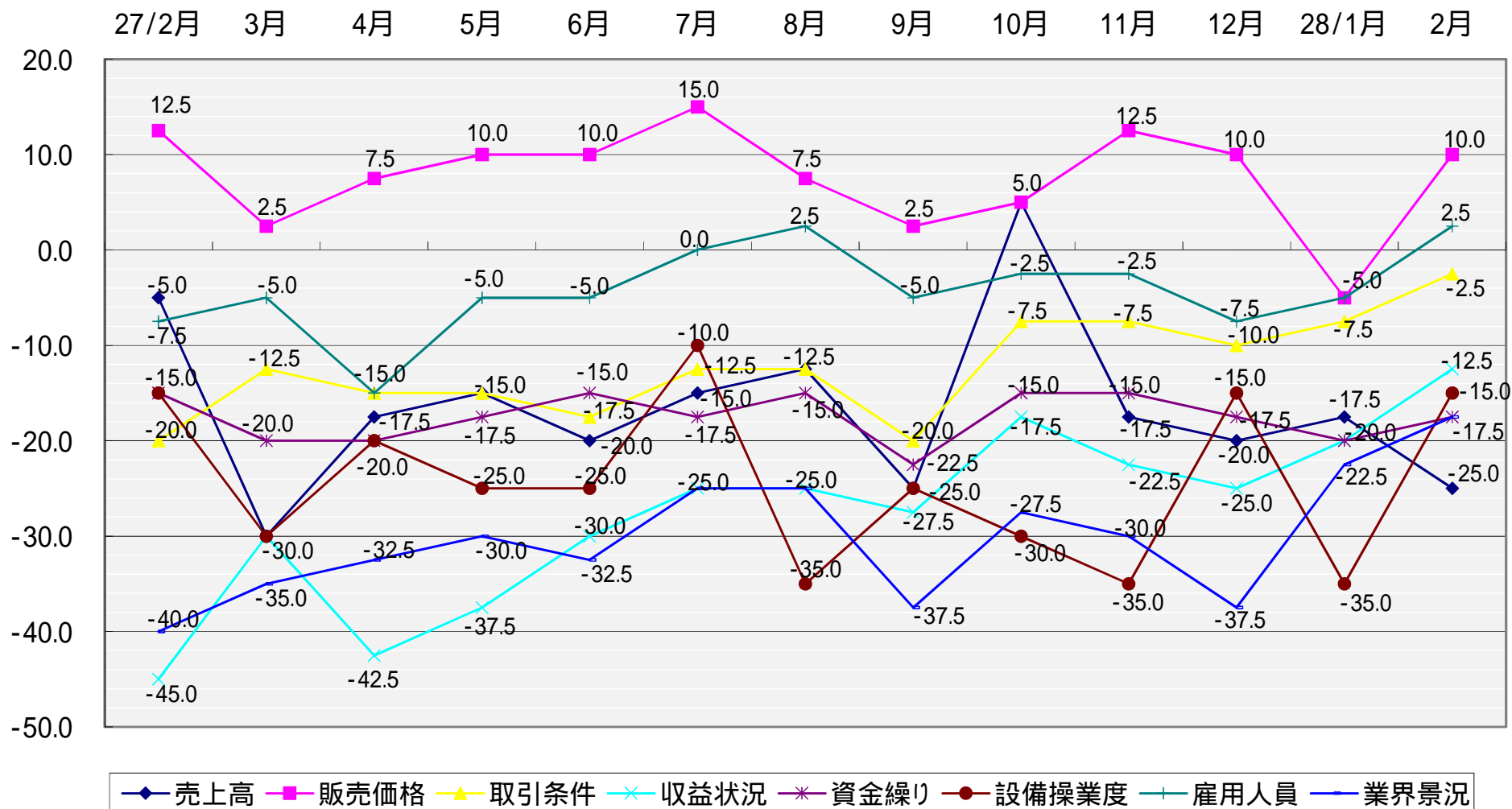
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	27/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28/1月	2月	増減
売上高	-5.0	-30.0	-17.5	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-20.0	-17.5	-25.0	-7.5
販売価格	12.5	2.5	7.5	10.0	10.0	15.0	7.5	2.5	5.0	12.5	10.0	-5.0	10.0	15.0
取引条件	-20.0	-12.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	-10.0	-7.5	-2.5	5.0
収益状況	-45.0	-30.0	-42.5	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-25.0	-20.0	-12.5	7.5
資金繰り	-15.0	-20.0	-20.0	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-22.5	-15.0	-15.0	-17.5	-20.0	-17.5	2.5
設備操業度	-15.0	-30.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-35.0	-25.0	-30.0	-35.0	-15.0	-35.0	-15.0	20.0
雇用人員	-7.5	-5.0	-15.0	-5.0	-5.0	0.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	2.5	7.5
業界景況	-40.0	-35.0	-32.5	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-37.5	-22.5	-17.5	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成28年2月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	一時需要が低迷していたが、平年並みに推移している。
		醤油味噌	3月6日(日)県主催の大阪ガスミュージアムでの食のイベントに県産の溜、醤油、味噌の使用・採用が一部決まり、組合員が数社出展参加する。大手スーパーにおける三重・伊勢志摩フェアでは、埼玉 越谷にて「三重しょうゆ街道」として組合が組合員数社とともに、出展参加する。(4月8日~10日 イオン越谷レイクタウン店、4月15日~18日イオン東員店)
		豆腐	県外の業者からの入荷が多くなりつつあり、県内の業者は押され気味である。
		麺	4月・5月とイオンで伊勢志摩サミットのイベントが開催され、伊勢うどんフェアを組合として参加する。全国の少しでも多くの方々へ地域ブランドを食べて頂くことができる。今後の取り組みが楽しみである。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	天候不順もあり、季節商品の動きが悪い。昨年並みか少し下回る出荷量になると予想される。
		古紙	2月期の仕入れ量は、前年比で段ボール：約98±4%、新聞・チラシ：約93±3%、雑誌・雑紙・その他合わせて：約94±5%の中での推移と思われる。段ボール箱の薄物化により、箱量が増えても重量が少なくなっている。今年の2月は暖冬で春物の入れ替えが早く、3月の荷動きが気になる。段ボール古紙の輸出価格が少し落ち着いてきた。アメリカ大統領選挙で初の黒人大統領から女性大統領へのバトンタッチを希望しているが、結果が気になりである。トルコの情報統制による暴動も気がかりである。経済が大きくて何処と何処が繋がっているのか。何処がぎるに偽って犯罪行為となるのか。真実とはどのような目線で誰に都合のよいものか、等々考えてしまう。これらのニュースは日本の経済にはマイナス要因か。少子高齢化と人口減少、消費活動の変化による紙の消費減は変わらない。古紙等の持ち去り行為が多発しており、持ち去られた荷物は流通している。安心して見ていられる安全で健全なりサイクル活動が妨げられている。
	印刷	印刷	年度末を迎え、例年通り活気が出てきた。しかしながら繁忙期であっても、原材料の値上げを販売価格に転嫁できないものが多いのが現状である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館では、昨年と比べ売上・入館者数とも大きく減少しているが、その原因として昨年はこの時期にNHKのBS放送で伊賀焼の土鍋類が取り上げられた番組が再放送され、それが昨年の売上に反映したものである。そのため、この時期としては例年通りといえる。また伊賀・信楽古陶館において、売上は昨年を上回っている。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の全体の生産量としては、1月と比べ若干であるが、多くなってきている。ただやはり扱う製品によって増加・減少と分かれたことには変わりない。自動車関連はT社の2月1週間操業停止の影響で2月の生産量は若干落ちたが意外と落ち幅は少なかった。半導体関連は全体的に増加傾向がみられた。この傾向はまた暫くは続く見通しである。
	一般機器	北勢	前月に比べて大きな変化は見られない。日銀のマイナス金利政策は株高と円安を狙った政策なのだろうが、中小企業にとって有効な何かを生み出す材料としては考えにくい。組合員は各々の仕事で頑張っている。
		北勢	先月から特に変化はない。
	電気機器	南勢	前年度に比べ、受注量が15%減少し、非常に厳しい状況になっている。
	輸送機器	北勢	トヨタの国内工場における操業停止があり、部品を受注している組合員企業での影響も懸念されたが、受注量の割合は多くないため、特に大きな影響はなかった。原油価格の下落により、ガソリンや灯油価格などは早くから下がっていたが、ようやく潤滑油などの作動油にも値下げの動きがあった。
	非製造業	小売業	青果
自転車			通学車の春需に向けて各ショップも商品が動く中、2月上旬に中部・近畿合同の自転車ブロック会が石川県で開催された。日商連事業で28年度全国自転車安全点検普及活動の会場数発表後、上部団体より自転車業界の人材育成の問題が話題となった。今後どの県も高齢化対策に取り組みなければならないようである。現在各県とも春需に向けた売り出しキャンペーンを行っているが、関西の激戦区では商品、修理代金で過激なやり方等、問題点も多く、話題が尽きなかった。

非製造業	小売業	家電	2月度も引き続き苦戦を強いられている。各家電メーカーでは専門店向けに春商戦以降に地区合同展示会や個展の推進、新製品の商品研修会を実施している。業界ではリオオリンピックに向けて、4Kテレビを中心に需要の獲得に向けて準備段階である。また、4月より電力自由化がスタートし、各支部で組合員向けに中部電力の支援で研修会を進めている。今後は、「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」の意識が高まると思われ、お客様のお困りごとに応えられるよう研修会等を計画している。
		石油	2月の燃料油販売数量の状況は前年対比5～6%の減販状況であった。原油価格については先月より5ドル前後の値上げであったが、各給油所においては燃料油販売数量の前年対比を維持するために、思うように値上げを行えない状況であった。先月から好調な灯油についても、今後は寒さも期待できない季節になってきているが、3月以降については、車検整備点検の獲得を重点的に油外での収益を行いたい。
		スポーツ用品	3月から当業界では学納（学生の体操服）のビジネスが始まっている。この1か月で各店、年間の3分の1の商売をする店もある。ただ、少子化が頭の痛いところである。
	商店街	熊野	9月から朝市イベントで使える地域振興券を活用した「いこらいスーパーお買物券」は先月で終了しており、今月の集客数と売上が気になるところであったが、集客に定着感が出たのか、昨年同時期の売上よりは全体的に若干アップしていたようだ。今後はイベントと運動して一層の集客を目指す予定。
	サービス業	旅館	2月の初旬は春節の休日を使って中華圏の国から訪日外国人客が大挙来日され、ゴールデンルートは大賑わいで関西で収まらない団体客で東名阪道のIC近くのビジネスホテルは満館の日が続いていたが、他の地域ではFIT（個人客）の方々が少し目立った程度で岐阜県の有名温泉地は連日満館でGW以上であったようである。今月全体ではサミットの風評も影響したのか少し低調であった。
		警備	サミット関係の仕事で受注は多くあるが、隊員不足で売上増とならないのが現状である。
	建設業	内装工事業	前月に引き続き今月は売上等が前年対比で増加となった。年度末のため、駆け込み需要が見込まれる可能性が高い。
		水道工事業（北勢）	今月は特に大きな変化は見られないが、年度末が近づいているため、多忙な状況が続いている。
	運輸業	トラック	輸送需要が依然として停滞しており、事業収入が減少している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	ものづくりの補助金を取れるしくみと、食品のHACCP（危害分析重要管理点）の取り組みを業界をあげ取り組んでいく。
一般機器	北勢	政府の中小企業支援はお題目や掛け声は立派だが、具体性に欠けるし、支援の金額も少なすぎる。
	南勢	ベースアップの報道が多くなり、例年のことであるが、アベノミクスの恩恵を受けていない地方の零細企業にとっては、ベースアップどころか、定期昇給さえままならない中で、頭の痛い時期である。政府が声高に賃上げというのは止めて欲しい。個々の実情に合わせて大企業等、実施できることがあればよい。
サービス業	旅館	インバウンド（訪日外国人）においては、昇龍道キャンペーンで同じ誘客活動をする他県との差を春節の時期は強く感じる。サミット効果を活かした新たな戦略を立てる必要がある。
運輸業	トラック	内需拡大への施策を期待する。